

# 「留萌港開港 80 周年記念写真展」の開催について

留萌開発建設部

留萌港は、昭和11年に国際貿易港の指定を受けてから開港80周年を迎えました。

留萌開発建設部では、これを記念して、留萌市との共催のもと、これまでの留萌港の歴史の足跡を振り返る「留萌港開港80周年記念写真展」を開催しました。

かつて天然の河口だった留萌港が、留萌川の流れを人工的に変え、旧河口を掘り下げ港湾を造り、川の切り替えにより不用となる旧河川を埋め立て、留萌の街を一から造るという、港湾修築計画と都市計画が互いに対をなして誕生させた他に類を見ない留萌港の歴史を上空から撮影された写真とともに紹介しました。



また、明治43年の港湾整備の開始より、世界三大波濤(はとう)と言われる激浪により建設に困難を極めつつも、留萌の街を波浪による災害から守り続けている留萌港南防波堤(平成22年11月に土木学会選奨土木遺産に認定)の紹介や、高度経済成長の中で、石炭積み出しを中心に臨港鉄道や高架栈橋、石炭積み出し機(ローダー)が建設され、留萌港の物流を支えた南岸壁など、留萌港整備の歴史を当時の写真や解説文を交えたパネル約50点を展示しました。

訪れた市民の方々に公共事業を通して発展していく留萌港の姿に関心を持ってもらうとともに、港の役割などについて説明しました。



写真展は、9月15日から16日に、江戸時代後期の測量家、伊能忠敬らが作成した日本地図の複製を展示している「伊能大図フロア展」に合わせて留萌市スポーツセンターで、10月2日から6日は留萌市中央公民館ロビーにて開催し、市内の小中学生ら約500人が訪れました。加えて、11月7日に開催された「ザ・シンポジウムみなと in 留萌」に合わせて開催も行い、いずれも来場された方々は、熱心にパネルに見入り、留萌港整備の重要性について理解を深めていただきました。

